

千曲川・犀川流域を対象としたタイムライン検討会 設立趣旨書（案）

長野市は善光寺の門前町として全国に親しまれ、経済・文化面にわたる中心的機能が集積するとともに、国道18号やJR信越本線、北陸新幹線などが走る交通の要衝として発展してきた中核市である。

一方、長野市は長野盆地にあり、その中を犀川と千曲川が流下し、盆地を抜けるところで川幅が狭くなっている。このことが長野市の水害リスクを高める要因となっている。

記憶に新しいところでは、飯山市で、昭和57年9月に樽川が、昭和58年9月に千曲川本川が堤防決壊する洪水が発生し、平成18年7月には氾濫は免れたものの、立ヶ花地点で計画高水位にせまる洪水が発生している。長野市ではこれらの洪水のたびに広範囲にわたり内水被害をうけている。千曲川の洪水発生状況と、近年の全国的な降雨の局地化・集中化・激甚化の傾向も考慮すると、堤防決壊などによる大規模水害発生を想定した対策を講じることが重要である。

この状況に対し、ハード対策として堤防整備などを計画的に進めているところであるが、整備に時間を要することから、洪水に対する防災・減災のために、ハード対策と合わせてソフト対策を、関係機関と地域住民が連携し、実効性のあるものに充実させていく必要がある。

国土交通省では、第2回「水災害に関する防災・減災対策本部」の中間とりまとめに基づき、タイムラインの策定に関心の高い自治体や企業等とともに、リーディング・プロジェクトとして、水害発生時における防災・減災のための国・県・市・企業等の関係者との連携した先行的な取り組みを推進しているところである。

この度、長野市において関係機関が連携し、住民の生命を守るための防災行動計画を作成するため「千曲川・犀川流域を対象としたタイムライン検討会」を設立するものである。